

ニッポン

ドクター和の

臨終回巻



長尾和宏（ながお・かずひろ） 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。西国際大学客員教授。

あります。

1月14日、81歳で亡くなった

夏木さんに腎がん腎細胞がんが見つかったのは2010年のこと。腫瘍は5cmほどあり、左腎臓の全摘出手術を行いました。

腎がんは、エコーさえすれば見つかりやすいがんです。健康診断やほかの病気の検診などで偶然発見されることもよくあります。

腎がんは、工コーサえすれば見つかりやすいがんです。健康診断やほかの病気の検診などで偶然発見されることもよくあります。

自覚症状として血尿が重要で

がんは完治しなかったものの、その後も大好きなバイクやクラシックカーレースを楽しみ、アクティビティにがんとの共存生活を上手に続けていたようです。

「これから先は、『生きることの原点』を根本に、仕事は楽しんで遊びは一生懸命に」

夏木さんは80歳の誕生日、自身のブログにこう書いていました。なかつたかもしれません。

「これから先は、『生きることの原点』を根本に、仕事は楽しんで遊びは一生懸命に」

夏木にこんな前向きな決意を発信できた夏木さんは、孤独な老後とは無縁の人生だったのでしょうか。

伝説の主演ドラマ「青春とはなんだ」（石原慎太郎原作・原案）から50年経ってもなお、青春の香りを放ち続けた人でした。

昨年末に出版した拙著『男の孤独死』（アックマン）が、おかげさまで話題になっています。多くの取材を受けますが、「つまり独身男性は孤独死しないたために、高齢になつてからでも結婚しておいたほうがいいということですね？」と聞いてくる記者がいて少し戸惑います。

独身男性イコール孤独な老後と考えるのは間違いです。既婚者でも妻との折り合いが悪く、孤独死同然で死を迎える男性はいますし、逆に華やかに人生を遂げる独身男性もたくさんいます。

俳優の夏木陽介さん

にも、最期まで華々しく好きなことに生きた

独身貴族のイメージが



⑩

夏木陽介

独身貫き生涯青春